

# 合成メタンの呼称統一に関するJGA提案

2022年11月22日

一般社団法人

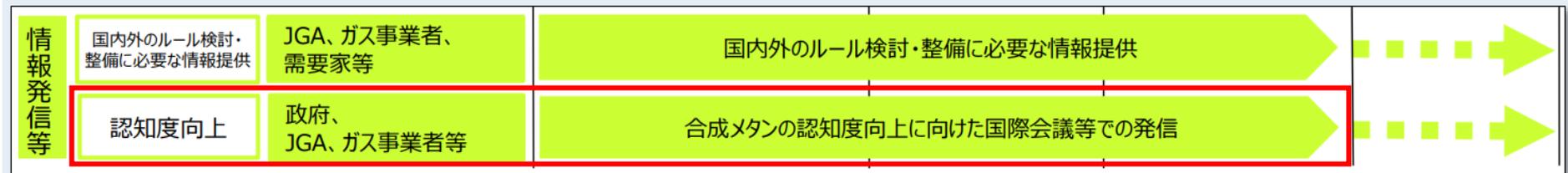
 日本ガス協会

# 1. 合成メタンの国際的な認知度向上、統一呼称検討の必要性について

- 国際ルールの整備に向けては、**合成メタンの国際的な認知度向上が必要**であり、統一的な呼称の検討の必要性については、これまでの官民協議会の中でも複数の委員の方々から意見が出されている。

## メタネーション推進官民協議会における検討

### <2030年に向けたアクションプラン>



出典：2022/4/19 第7回メタネーション推進官民協議会資料3-2より加工・抜粋

### <委員ご発言：第1回>

- カーボンニュートラルメタンについて、海外ではe-gasといった呼称が使われており、こういった呼称を上手く使いながら**国際的な共通の認識を形成**していくことが重要である。
- 呼称について、e-gasが海外で使われているという話があったが、やはり国際標準化を進める上で大事なポイントで、実際問題として同じものであるならば、**同じ言語を使う方がスムーズに共有化できるのではないかと思う。**

**合成メタンの国際的な認知度向上に取り組む上で、  
統一的な呼称が必要**

## (参考) 合成メタンのカウントルールに関する国際動向

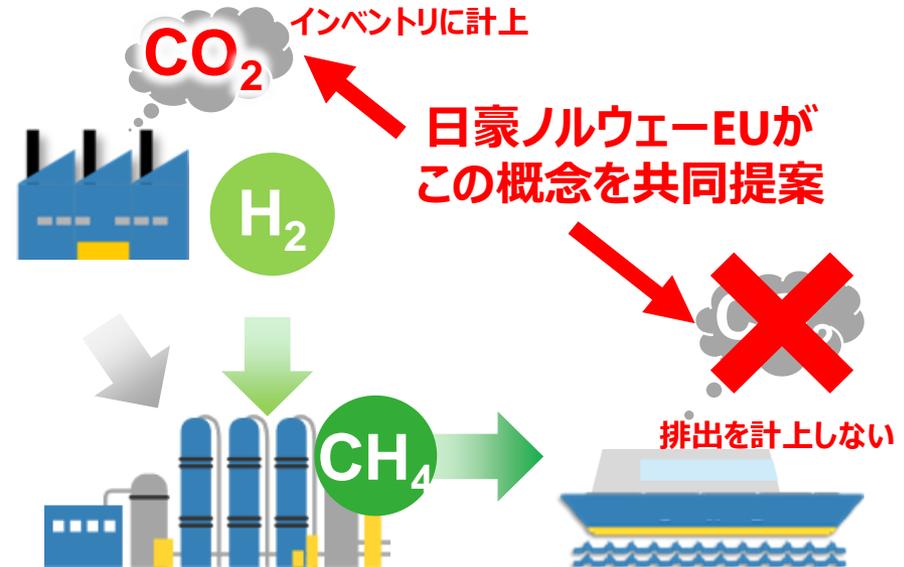
- 合成メタンに代表されるCCU (Carbon dioxide Capture and Utilization) を活用した合成燃料の燃焼時におけるCO<sub>2</sub>の取り扱いに関して、世界的にも議論がなされている。
- 国際ルールの整備にあたっては、合成メタンのプレーヤーが統一の呼称をもって、共通認識を形成していくことが重要ではないか。

### 欧州委員会における合成燃料の取扱い案

$$E = e_i + e_p + e_{td} + e_u - e_{ccs}$$

- E : 合成燃料使用時のライフサイクルのGHG排出量総和
- $e_i$  : 原料に含まれるGHGで、工業プラント等から回収したCO<sub>2</sub>は控除可能**
- $e_p$  : 製造プロセスで排出されるGHG
- $e_{td}$  : 輸送で排出されるGHG
- $e_u$  : 消費時の燃焼で排出されるGHG
- $e_{ccs}$  : 地下貯留したGHG

### 国際海事機関(IMO)における国際的な提案



出典：欧州委員会「Methodology RNFBOs and RCFs (Draft)」(2022年5月)

出典：国際海運2050年カーボンニュートラルに向けた官民協議会資料より日本ガス協会作成

## 2. 呼称の検討候補について

- 呼称の候補として、海外での使用実績等を踏まえ、4案を選定。
- 認知度、環境性の訴求等の観点から各候補に対して、得失評価を行い、**e-methane**を選定。

候補	評価
e-methane	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>海外で一定の使用実績あり</b></li> <li>○ 国内外において既に<b>使用実績の有る「e-fuel」とも親和性の高い呼称</b>である</li> <li>○ 語頭の“e”から<b>環境性を想起させやすい</b></li> <li>○ <b>商標取得実績が無く</b>、使用が制限される恐れがない</li> </ul>
e-gas	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海外で一定の使用実績あり</li> <li>○ 国内外において既に使用実績の有る「e-fuel」とも親和性の高い呼称である</li> <li>○ 語頭の“e”から環境性を想起させやすい</li> <li>△ 商標取得実績があるため、使用が制限される可能性がある</li> </ul>
Synthetic methane	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海外で一定の使用実績あり</li> <li>△ 合成ガスの英訳であり、環境性の訴求に繋がらない懸念がある</li> </ul>
syn-gas	<ul style="list-style-type: none"> <li>△ 合成ガスの英訳であり、環境性の訴求に繋がらない懸念がある</li> <li>△ 商標取得実績があるため、使用が制限される可能性がある</li> </ul>

### 3. アンケート結果について

- 統一呼称をe-methaneにすることを賛否について、官民協議会の参加事業者を対象にアンケートを実施。賛成が太宗を占めたが、国内認知度の懸念やe-methaneの定義を明確にしておくべきとの意見があった。

#### 合成メタンの呼称に関するアンケート概要

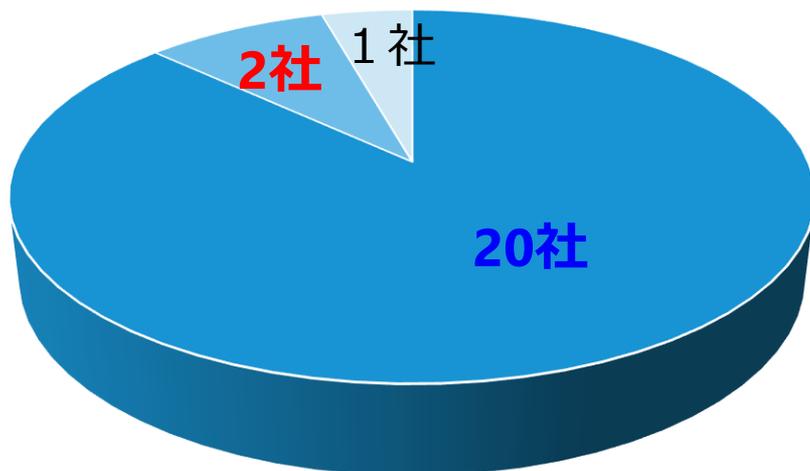
##### (1) 対象事業者

メタネーション推進官民協議会 参加企業および委員 23社（者）

INPEX、東京電力HD、関西電力、JERA、商船三井、日本郵船、日本製鉄、JFEスチール、UBE三菱セメント、デンソー、アイシン、住友商事、三菱商事、Shell Japan、IHI、日立造船、日揮、千代田化工、三菱重工、日本政策投資銀行、JOGMEC、RITE、日本エネルギー経済研究所

##### (2) アンケート内容および回答結果

合成メタンの統一的な呼称を「**e-methane**」としていくことの賛否について



■ 賛成 ■ 反対 ■ 賛否無し

#### <主な意見>

- 海外で一定の使用実績が有る。
- 「e-fuel」とも親和性の高い呼称である。
- 国内外において商標取得実績がない。
- 合成メタン（e-methane）といった日英双方の呼称を利用する考え方もあるのではないかと。
- e-methaneの定義や透明性のある方法論の確立が重要。
- 理系用語であり一般受けしないのではないかと。
- Electroの“e-”を冠することは、国際的な議論において、日本が取り組む合成メタンはブルー水素やグレー水素が排除されている誤解を生む可能性があるため

## 4. 合成メタンの統一呼称「e-methane」について

- 合成メタンの統一呼称を「e-methane」とし、今後は国の審議会資料や、メタネーションに携わる関係者の皆さまに幅広くご使用いただくことで、合成メタンの国際認知度向上に繋げていくことをご提案させていただきます。

### (1) 合成メタンの統一呼称検討の背景・目的

- ✓ 合成メタンのCO<sub>2</sub>カウントルールについては、国内だけでなく**海外の制度も含めたルールメイキングが必要**。
- ✓ 日本主導で海外のルールメイキングを推進していくにあたっては、**国際的な認知度向上も重要**であり、**合成メタンの統一呼称としてe-methaneを用いて情報発信を図ることで、認知度向上に繋げる**。

### (2) 概要

呼称・ロゴ	
定義	● グリーン水素等の非化石エネルギー源を原料として製造された合成メタンに対して用いる呼称とする
eに込めた思い	<p>①<b>S+3Eの実現</b>          ……合成メタンは、エネルギー政策を進める上での原則であるS+3Eを実現するエネルギー</p> <p>②<b>再生可能エネルギーの活用によるカーボンニュートラルの実現</b>          ……将来的には再生可能エネルギー由来の電力（electro）から製造されたグリーン水素を活用</p>
使用範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ガス業界のみならず、メタネーションに携わる官民の関係者に幅広く活用いただくことを目指す</li> <li>● 日本ガス協会ホームページにて、上記ロゴや使用マニュアルを公開。</li> </ul>

以上